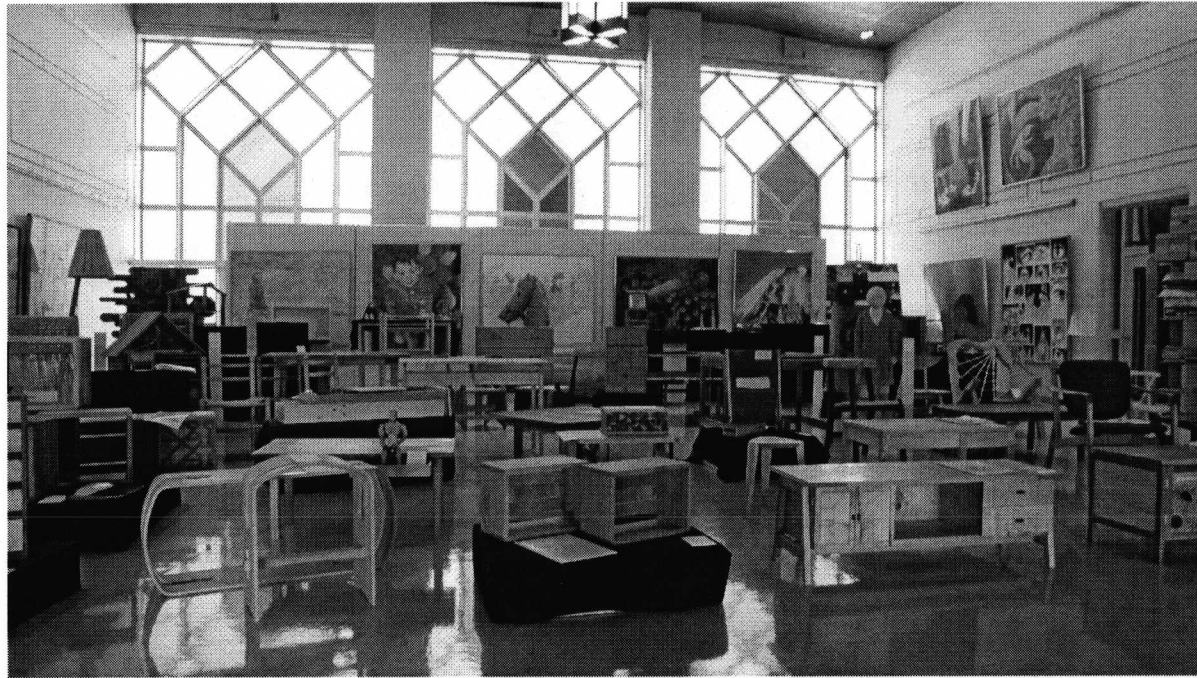


令和2年度

シラバス



1 学 年

北海道おといねっふ美術工芸高等学校

教科名	国語	科目名	国語総合	学年	1学年
教材	教科書	新編 国語総合 改訂版		単位数	4
	副教材	常用漢字の1・2トライ、新版三訂 カラー版 新国語便覧 新編 国語総合 改訂版 学習課題ノート		履修区分	共通
学習の目標	1 話す・聞く能力、書く能力、読む能力を総合的に育てます。				
	2 言語事項に関する知識、理解を深めます。				
	3 国語への関心・意欲・態度を育てます。				
学習の進め方	1 適宜漢字のテストを実施します。				
	2 現代文(随想・小説・評論・詩歌)を読んで、それぞれの作品に対する理解を深めます。				
	3 古典(古文・漢文)を読んで独特のリズムを味わい、古人の考え方を学びます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○感動する心 古典文法	・国語総合の学習について ・ワンダフル・プラネット ・古文を学ぶ上での基礎作り	学習規律の徹底 ※単元ごとにワークをします。
	5	○日本語を考える ○随筆の楽しみ	・人生は「動詞」で変わる ・春はあけぼの	
	6	○小説を楽しむ ○漢文のとびら	・子供たちの晩餐 ・訓読のきまり ・訓読に親しむ	[中間考査]ノート提出
	7	○日本語を考える ○古文に親しむ	・漢字の性格 ・児のそら寝	
	8	○小説を味わう ○古文に親しむ	・羅生門 ・ねずみの婿とり	
	9	○故事と史話	・故事(守株、蛇足)	[期末考査]ノート提出
前期目標				
後	10	○文化とことば ○随筆の楽しみ	・水の東西 ・徒然草 (奥山に猫またといふもの)	
	11	○読書を広げる ○故事と史話	・夢十夜 ・史話(鶏口牛後)	
	12	○物語の世界	・伊勢物語(芥川)	[中間考査]ノート提出
	1	○いのちと平和 ○軍記物語の響き	・心が生まれた惑星 ・平家物語	
	2	○社会に生きる ○唐詩のしらべ	・政治の本質 ・春眠暁を覚えず	[学年末考査]ノート提出
	3	○唐詩のしらべ	・自然のうた ・友情のうた ・憂愁のうた	
後期目標				

評価方法	・定期考査・小テストの成績、課題やノートの内容や提出状況、日常の授業への参加態度等で評価します。 ・国語科の観点別学習状況の評価の5観点に立ち総合的に評価します。	
評価の観点	【関・意・態】	・国語や言語文化に対する関心を持っているか。積極的に授業に参加しているか。
	【話・聞】	・自分の考えを深め、目的や場面に応じた話し方、聞き方が出来るか。
	【書】	・自分の考えを深め、相手や目的に応じた適切な文章を書けるか。
	【読】	・自分の考えを発展させながら、目的に応じた文章の読み取りが出来るか。
	【知・理】	・表現、理解のための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字を身につけたか。

教科名	公民	科目名	現代社会	学年	1 学年
教材	教科書	高等学校 現代社会 新訂版 (清水書院)		単位数	2
	副教材	高等学校 現代社会 新訂版ワークノート (清水書院)		履修区分	共通
学習の目標	1 現代社会の基本的な問題について、主体的に考察する力を培います。				
	2 社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正に判断する力を養います。				
	3 広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めます。				
学習の進め方	1 教科書を中心に前期は青年期と政治分野、後期は経済分野と国際社会について学びます				
	2 アクティブ・ラーニングに参加し、思考力・判断力・表現力を身につけます。				
	3 ワーク・小論文の提出や小テスト・定期考査を通し、学習した内容の理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考査等
前	4	○オリエンテーション ○青年期と自己の形成	<ul style="list-style-type: none"> 青年期と自己実現 よりよく生きることを求めて 	※考査毎にファイル・ワークを提出
	5	○現代の民主政治と政治参加の意義	<ul style="list-style-type: none"> 基本的人権の保障 日本国憲法、国民主権、天皇制 	・小テスト
	6		<ul style="list-style-type: none"> 平和主義 国会・内閣・裁判所 	<ul style="list-style-type: none"> 中間考査 ファイル提出
	7		<ul style="list-style-type: none"> 地方自治 	・小論文 I
	8	○個人の尊重と法	<ul style="list-style-type: none"> 選挙 個人の尊重と自由・責任 	
	9		<ul style="list-style-type: none"> 開かれた司法制度に向けて 民主社会と倫理 	<ul style="list-style-type: none"> 期末考査 ファイル提出
前期目標				
後	10	○現代の経済社会と経済活動のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 経済主体と経済循環 景気変動と物価、経済規模と経済成長 戦後の日本経済 	
	11		<ul style="list-style-type: none"> 企業の役割とはたらき 租税のしくみと財政 (租税教室を含む) 金融機関と金融政策 	
	12		<ul style="list-style-type: none"> 社会保障制度の役割と課題 労働問題 	<ul style="list-style-type: none"> 中間考査 ファイル提出 小論文 II
	1	○国際社会の動向と日本の果たすべき役割	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化と国際社会 冷戦のはじまりと世界の動き 国際収支と為替相場 	
	2		<ul style="list-style-type: none"> 経済のグローバル化 国際経済の諸問題 冷戦後の世界と核軍縮 	<ul style="list-style-type: none"> 期末考査 ファイル提出
	3	○ともに生きる社会を目指して	<ul style="list-style-type: none"> 国際連合と国際平和 日本の安全保障と平和維持活動 課題を選択してのレポート 	・小論文 III
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査・小テストの成績、ワーク・ファイル・小論文の提出状況、授業への関心・意欲・態度、アクティブラーニングへの取り組み等で総合的に評価します。 公民科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。
評価の観点	【関意態】 現代社会に対する関心の高さ、授業に取り組む姿勢(授業態度・提出物)。
	【思判】 社会の諸問題に対する多面的・多角的な視点を持てるか。(小論文・AL)。
	【技表】 適切に資料を取捨選択し、これを根拠に表現できるか(小論文・定期考査・AL)。
	【知理】 現代社会の基本的事項を身につけているか(定期考査・小テスト)。

教科名	数学	科目名	数学 I	学年	1 学年
教材	教科書	新 高校の数学I (数研出版)		単位数	3
	副教材	基本と演習テーマ 数学I+A (数研出版)		履修区分	共通
学習の目標	1 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識と技能の習得を目指す。				
	2 事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できることとそれらを活用する態度を育てる。				
学習の進め方	1 前期は教科書の内容を中心に、2次不等式まで学ぶ。				
	2 後期は教科書の内容を中心に、データの分析まで学ぶ。				
	3 毎時の授業で課題を出し、学習習慣を確立しつつ理解を深める。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○中学までの復習 1章：数と式	・新入生課題の解説、確認 ・整式、整式の加法減法、因数分解	*年間を通して小テストを行っていく ・新入生課題のテスト
	5		・因数分解、実数 ・1次不等式	
	6	2章：集合と論証	・命題と条件、論証	・中間考査
	7	3章：2次関数	・2次関数とそのグラフ、最大・最小	
	8		・2次関数の決定	
	9		・2次方程式 ・2次不等式	・期末考査
前期目標				
後	10		・2次不等式とその応用	
	11	4章：図形と計量	・直角三角形と三角比、正弦・余弦 ・鋭角における三角比の相互関係	・中間考査
	12		・三角比の拡張、三角比と座標 ・ $0^\circ \sim 180^\circ$ の三角比の相互関係	
	1		・正弦定理、余弦定理、三角形の面積	
	2	5章：データの分析	・データの整理、代表値、箱ひげ図 ・データの散らばり、分散と標準偏差 ・データの相関、相関係数	・学年末考査
	3	課題学習	・身近な課題について調べ、分析する	
後期目標				

評価方法	・定期考査、小テストの成績、ファイルの提出、日常の授業への参加態度等で評価する。 ・数学科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価する。				
評価の観点	【関・意・態】	数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用しようとしているか。			
	【数学的見方】	事象を数学的に考察しようとしたり、思考の過程を多面的・発展的に考えたりしているか。			
	【数学的技能】	事象を数学的に表現・処理する仕方や技能を身につけているか。			
	【知・理】	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけているか。			

教科名	保健体育	科目名	体育	学年	1 学年
教材	教科書	現代高等保健体育		単位数	2
	副教材	ステップアップ高校スポーツ		履修区分	共通
学習の目標	1 体育活動をとおして、行動力と精神力を養います。				
	2 進んで運動に取り組み、公正、協力、責任などの態度を身につけます。				
	3 健康・安全に留意して運動する能力を身につけます。				
学習の進め方	1 1年生は体力テスト、体づくり、器械運動、水泳、陸上、球技、スキーを実施します。				
	2 基本的には一斉授業ですが、班活動による集団としての学習を推進します。				
	3 地域の特性を利用し、自然との触れ合いを通して健康、体力の保持増進を目指します。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○体力テスト ○体づくり運動	・体力診断テスト ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	・新体力テスト ・班づくりと準備体操づくり
	5	○器械運動	・マット運動の基本技能 (個々の能力に応じて技を選択し、連続技を組み立てる。)	・発表会の実施
	6	○体育理論 ○野外活動 ○陸上運動	・運動・スポーツの文化的特徴 ・自然探索 ・短距離走	・前期中間考査
	7			・記録会の実施
	8	○水泳	・クロールの習得 (ゆっくり長く泳ぐ)	・記録会の実施
	9	○陸上運動 ○体力テスト	・持久走 (トレッキング、ウォーキング ジョギング)	・強歩記録会の実施 ・前期期末考査 ・第2回シャトルラン
前期目標				
後	10	○球技 ○体育理論	・バレーボール (個人技能を身につけ、作戦を生かした攻防を展開します。)	・ルールと審判法の習得 ・技能テストの実施
	11			・後期中間考査
	12	○スキー	・クロスカントリースキーの見学と体験(多様なスキー文化を知る。)	・クロスカントリーコースでの見学と取材活動
	1		・ゲレンデスキーの滑走法を理解し、習得します。	・スキーツアー ・技能テストの実施
	2			
3				
後期目標				

評価方法	・実技の能力だけでなく、運動に取り組む意欲や、公正、協力、責任などの態度、ルールや審判についての知識や技能などを、総合的に評価します。			
評価の観点	【知識・技能】	運動の楽しさ等を味わうために必要な知識と技能を身につける。		
	【思考・判断・表現】	将来的健康実現に向け思考、判断や仲間と連携する力を身につける。		
	【主体性】	生涯にわたり意欲的、継続的に運動に取り組む態度を養う。		

教科名	保健体育	科目名	保健	学年	1 学年
教材	教科書	現代高等保健体育		単位数	1
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 日常生活と健康の関わりについて理解を深めます。				
	2 心の健康について理解を深めます。				
	3 日常生活における事故防止や安全の確保について理解を深めます。				
学習の進め方	1 自らの心身の健康について考えます。				
	2 現代社会が健康に及ぼす影響等について考えていきます。				
	3 日常的な応急手当や心肺蘇生について学びます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○私たちの健康のすがた	・保健の学習について ・わが国の健康水準 ・わが国の健康問題	・授業規律についての確認
	5	○健康のとらえ方 ○健康と意志決定 行動選択	・健康とその成り立ち ・健康と意志決定、行動選択の関わり	
	6	○健康に関する環境づくり ○生活習慣病とその予防 ○食事と健康	・健康と環境・ヘルス ^o プロモーション ・生活習慣病とその予防 ・健康的な食生活	・前期中間考査
	7	○運動と健康 ○休養・睡眠と健康 ○喫煙と健康	・運動の意義、運動習慣の形成 ・よりよい休養と睡眠 ・喫煙の健康被害と対策	
	8	○飲酒と健康 ○薬物乱用と健康	・飲酒の健康問題と対策 ・薬物乱用と健康との関わりと問題、防止と対策	
	9	○現代の感染症 ○感染症の予防 ○欲求と適応機制	・さまざまな感染症とその問題 ・感染症の予防と対策 ・欲求、欲求不満と適応機制	・前期期末考査
前期目標				
後	10	○心身の相関とストレス ○ストレスへの対処 ○心の健康と自己実現	・心身相関のしくみとストレス ・ストレスへの対処 ・心の健康と自己実現の関わり	・後期中間考査
	11	○交通事故の現状と要因 ○交通社会における 運転者の資質と責任	・交通事故の現状と要因 ・運転者の資質 ・運転者の責任と補償	
	12	○安全な交通社会づくり	・法的整備、施設・設備 ・車の安全性向上	
	1	○応急手当の意義と その基本	・応急手当の意義と手順	
2	○心肺蘇生法	・心肺蘇生の意義と手順		
3	○日常的な応急手当	・けがや熱中症の応急手当		
後期目標				

評価方法	・定期考査や日常の授業における参加意欲、学習態度を中心に評価します。	
評価の観点	【知識・技能】	健康・安全の実現に必要な知識と技能を身につける。
	【思考・判断・表現】	将来的健康実現に向け思考、判断や仲間と連携する力を身につける。
	【主体性】	生涯を通じた自他の健康保持増進を目指す態度の養う。

教科名	美術	科目名	美術 I	学年	1
教材	教科書	高校生の美術 1 [日本文教出版]		単位数	3
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 造形表現の基礎を身につけ、自らの制作に生かす能力を高める。				
	2 様々な視点から作品を鑑賞し、表現活動を実社会に役立てる態度を高める。				
学習の進め方	1 作品制作を重ね、造形表現の基礎を身につけ、表現方法の幅を広げていきます。				
	2 教科書、配付資料、作品鑑賞を参考にしながら、表現活動について学びます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション p 2～3、p 66～68 ※工芸科科リエンテーション	3年間の美術や工芸の授業を通して身につける力と、そのための取組を確認します。	道具の管理方法や授業への臨み方を、早く身につけるようにしましょう。
	5	○アクリルパレットの扱い方 ○色の学習 (A表現デ) p 132～139 p 146～150	準備から作業、片付けまでの手順を学びます。様々な色の学習を通して、配色や形態、構成の考え方、制作のプロセスを学びます。	
	6	○文字をデザインする (A表現デ) (B鑑)	「木の手づくり展」のポスターに使用する文字をデザインします。目的に合わせて、文字の形や色、質感などを考え制作します。 完成作品をもとに鑑賞交流、作品展示を行います。	作品完成後にプレゼンテーションを行い、相互交流(鑑賞)を行います。
	7	p 70～75		
	8			
9				
前期目標	表現(デザイン)の基礎的技術を身につけよう。			
後	10	○観ること、描くこと (鉛筆デッサン) p 6～7 p 128～131	観察を通して、対象のとらえ方を学びます。思い込みを排し、客観的な対象の捉え方を身につけます。技術が的確に向上するように、ワークシートを活用します。	独自の見方に陥らぬよう、客観的な観察の視点を、制作・鑑賞を通して総合的に身につけるように心がけよう。
	11			
	12	○テーマを元に描く (A表現絵) (B鑑) p 8～25	表現のテーマを設定し、平面作品を制作します。限られた時間の中で、今まで学んできた表現方法を活用し計画的に制作していきます。配色や構図・構成を意図して表現できるように、たくさんのエスキースを描きます。また、鉛筆デッサンを通して身につけた観察・表現の技術を活用するようにします。また、作品の相互鑑賞も行います。	何のための表現かを見失わぬよう、表現主題、表現意図を大切にしましょう。 作品鑑賞を通して、主題と表現方法の関係を理解するようにしましょう。 テーマ(表したいこと)にふさわしい表現方法(表し方)を選択できるよう、エスキースをたくさん描き、また他者意見に耳を傾けよう。
	1			
	2			
3				
後期目標	観て描く力を伸ばし、テーマの設定や表現の工夫の仕方について、制作や鑑賞を通して学ぼう。			

評価方法	授業中の様子や課題の提出状況等により、主体的に取り組んでいるかを見取る ワークシートやエスキース、交流発表等より発想・構想、鑑賞の能力について見取る 制作過程や提出作品より、創造的な技能を評価する	
評価の観点	【関・意・態】	主体的に美術に関わろうとし、表現することの喜びを享受しようとしたか。
	【発想・構想】	様々な視点から豊かに発想し、表現意図に応じた方法を選択することができたか。
	【技能】	造形表現の基礎的技術を身につけ、効果的に表すことができたか。
	【鑑賞】	自分なりの見方を持つとともに、他者視点からあるいは客観的にとらえることができたか。

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語 I	学年	1 学年
教材	教科書	Vivid English Communication I NEW EDITION(第一学習社)		単位数	3
	副教材	①フレーズで英単語3000 ②スタディプログラムワークブック ③書いて身に付くパターンプラクティス英文法教室		履修区分	共通
学習の目標	1 英語による指示や、説明の概要を理解する。様々な英語を聞いたり読んだりして理解できる。				
	2 学習した内容や自分の経験・知識について、分かりやすい英語で話すことができる。				
	3 身近な出来事や自分について、やさしい英語で読み手に伝わるように書くことができる。				
学習の進め方	1 教科書をベースに、様々なタスクを通して学習した内容を用いて話す・書く練習をします。				
	2 ALTとの面接やペアワーク、英作文課題などで表現力を高めます。				
	3 ファイルや課題の提出、小テストなどを通して、学習した内容の理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	オリエンテーション 義務教育段階の復習 ●スタプロアセスメント	・授業の進め方、学習の方法について ・入学前課題の解答と復習 ・既習事項の確認	・プリント
	5	Lesson 1 You Can Do Something for the Olympics	・日本でのオリンピックの歴史や、古代オリンピックと近代オリンピックの違いを読み取らせる。	・GW明け単テ ・プリント
	6	Lesson 2 Stories behind Names ○前期中間考査	・名前の重要性と名前のもつ意味について読み取らせる。	・中間考査 ・ファイル提出
	7	Lesson 3 Look Cool on Your Streets	・日本のストリートファッションと海外での反応について読み取らせる。	・プリント
	8	Lesson 4 Our Actions Can Make Electricity	・エネルギー発電の問題点と速水浩平さんが提案する発電方法について読み取らせる。	・夏休み明け単テ ・プリント
	9	○前期期末考査	・定期考査対策、教科面談 【オリンピックに関する英語プレゼン作成】	・期末考査 ・ファイル提出
前期目標	義務教育段階の復習を終える。ライティングの基礎を学び、レポート作成に挑戦する。			
後	10	Lesson5 Laughter Is the Best Medicine ●スタプロアセスメント	・笑いが健康に好影響をもたらすことについて読み取ることができる。	・プリント
	11	Lesson 6 Take a Chance on You ○後期中間考査	・アンジェラ・アキさんの夢に向かって生きる姿や、若者に送るメッセージを読み取れる。	・プリント ・中間考査
	12	Lesson 7 Japanese Dishes from Abroad	・フードマイルの意味とフードマイル運動の問題点を読み取ることができる	・プリント
	1	Lesson 8 The Sphinx in Danger ●スタプロアセスメント	・スフィンクスに影響を及ぼしている塩害や、その原因や現状について読み取ることができる。	・冬休み明け単テ ・プリント
	2	○学年末考査	・定期考査対策、教科面談 【子どもの権利条約について英語プレゼン作成】	・学年末考査 ・ファイル提出
	3	一年のまとめ	・学習の振り返り、次年度に向けて	
後期目標	高校学習段階の理解と、プレゼンテーションやレポートの学習に慣れ、「思考力・判断力・表現力」を向上させる。			

評価方法	・授業への積極的参加や態度、定期考査・小テスト、ファイルやプリントの提出状況等を総合的に評価します。協力してペアワークやグループワークに臨みましょう。 ・英語科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。	
評価の観点	【関意態】	積極的な態度で言語活動に参加し、コミュニケーションを図ろうと努力している。
	【表現】	英語で話し合い・意見の交換ができる、情報や考え等を簡潔に書くことができる。
	【理解】	英語を聞いたり読んだりして理解し、概要や要点をとらえたりすることができる。
	【知識】	言語やその運用・文化背景についての知識を理解し、身に付いている。

教科名	情報	科目名	社会と情報	学年	1
教材	教科書	新・見てわかる 社会と情報 (日本文教出版)		単位数	2
	副教材	・情報のノート 新・見てわかる社会と情報 (日本文教出版) ・コンピュータ入力問題集 (日本文教出版)		履修区分	共通
学習の目標	1 情報に関する科学的な見方や考え方を生かし、情報モラルを踏まえて思考を深め、適切に判断し、表現する。				
	2 情報の基礎的・基本的技能、知識を身につけ、それらの意義や役割を理解する。				
学習の進め方	1 前期は教科書の内容をもとに、実習を通してワードやパワーポイントの技能を身につける。				
	2 後期は教科書の内容をもとに、実習を通してエクセルの技能を身につける。				
	3 定期考査前には教科書を中心に、情報化が社会に及ぼす影響等について学ぶ。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション 1章：情報社会に生きるわたしたち	・情報モラルを身につける	年間を通して情報機器の技能小テストを行う
	5	2章：コンピュータを使いこなそう	・ワードを用いた文書処理等	
	6		・データの容量について ・ワードを用いた文書処理等	
	7	3章：情報を整理して伝えよう	・パワーポイントを用いたプレゼンテーション	
	8	4章：情報社会の課題について考えよう	・情報化が社会の及ぼす影響 ・インターネットを利用する上での注意点と情報格差	
	9	3章：情報を整理して伝えよう	・エクセル実習 SUM、AVERAGE、MAX、MIX関数	・前期期末考査 ・ワーク提出
前期目標				
後	10		・エクセル実習 IF関数	
	11		・エクセル実習 IF関数、AND、ORを用いた関数 グラフの作成	
	12	4章：情報社会の課題について考えよう	・個人情報の保護 ・知的財産権	
	1	5章：情報社会のしくみを知ろう	・知的財産権 ・2進法等、2進法による表現	
	2		・音、画像、動画のデジタル化の仕組み ・データ通信の仕組み	・学年末考査 ・ワーク提出
	3	3章：情報を整理して伝えよう	・パワーポイントを用いたプレゼンテーション	
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査, 小テストの成績, 日常の授業への参加態度等で評価する。 情報科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価する。 	
評価の観点	【関・意・態】	授業に対し積極的に臨んでいるか。自ら情報及び情報技術を活用し問題解決を図っているか。
	【思・判・表】	情報モラルを踏まえ、思考を深め、適切に判断し表現しているか。
	【技能】	目的に応じて情報機器の基礎的・基本的技能を身につけているか。
	【知・理】	社会における情報及び情報技術の意義や役割における知識を身につけ、理解しているか。

教科名	工業	科目名	工業技術基礎	学年	1 学年
教材	教科書	工業技術基礎 (実教出版)		単位数	4
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 制作に関する基礎的技術を実習によって体験し、木工への興味・関心を高める。				
	2 制作活動を通して工具の使用方法を理解し、木工の意義や役割を理解する。				
	3 制作に関する広い視野と倫理観を持って木工の発展を図る意欲的な態度を育てる。				
学習の進め方	1 プリントを中心に木工具の成り立ちや使用方法について学びます。				
	2 実習をとおして木工具の使用法を習得し、制作の基礎を理解します。				
	3 蛇腹・工具箱・ほぞ組みを制作し、技術を習得します。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 本校で使用する工具について 工芸棟の使用法について 棧積み 	
	5	○墨付け、墨回しについて ○スコヤ・差し金・罫引き鋸の使用法	<ul style="list-style-type: none"> 正確な墨付け、墨回しの習得 スコヤ・差し金・罫引き・鋸の使用法について 	
	6			
	7	○研ぎについて ○鉋の仕立て	<ul style="list-style-type: none"> 鉋について ・鉋台の調整方法 鉋身・裏金の研ぎ方の習得 鉋の使用法について 	
	8	○鑿の仕立て	<ul style="list-style-type: none"> 鑿について 鑿の仕立て 鑿の研ぎ 	
	9	○組みの制作1	<ul style="list-style-type: none"> 各種ほぞ組みについて 	
前期目標				
後	10	○組みの制作1	<ul style="list-style-type: none"> 表面を鉋で仕上げる 	
	11			
	12	○組みの制作2	<ul style="list-style-type: none"> 組み手を用いた箱の加工 板接ぎの方法 	・ 組み 1 の提出
	1			
	2	○組みの制作2、道具の手入れ	<ul style="list-style-type: none"> 今までの基礎・基本を振り返りながら制作する 	
	3			・ 組み 2 の提出
後期目標				

評価方法	・ 課題提出状況、課題に対する技術力、授業への意欲・態度等により総合的に評価します。				
評価の観点	【関・意・態】	工具の使用法に意欲を持って積極的な取り組みができているか。			
	【思・判・表】	工具について理解し、状況に応じて正しく安全に使用することができたか。			
	【技能】	正しい工具の使用法が習得できたか。			
	【知・理】	工具の成り立ちや使用法・保管法を正しく理解できたか。			

教科名	工 芸	科目名	図法・製図	学年	1 学年
教材	教科書	インテリア製図 (実教出版)		単位数	1
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の 目標	1 製図の基礎となる平面図法、立体図法作図の基本を身につけます。				
	2 形態と図面との関係を正確に理解し、図面を読図する能力を育てます。				
	3 構想と表示の能力を養います。				
学習の 進め方	1 製図に用いる基本的な道具の使用法を学びます。				
	2 製図の基礎となる平面図法、立体図法について学び作図をします。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション	・年間指導計画、学習の心構え、 評価方法について	
	5	○製図について	・製図の目的や道具の名前、使用 方法について	製図道具の基本的な使い方を通し、 平面図法の作図をしていきます。
		○平面図法	・平面図法の作図	
	6	○製図文字	・製図文字について	製図で使用する文字練習をします。 ファイル提出
		○平面図法	・円に関する図法 ・接触角に関する図法 ・曲線に関する図法	
	7	○立体図法	・投影図の種類	後期に向けて投影図の種類や第三角 法について学びます。 ペーパーテスト
8	・第三角法			
9	○ドラフター	・ドラフターの機能 ・ドラフターの使い方 ・前期まとめ	ファイル提出	
前期 目標				
後	10	・組立図 ・部品図	・図面枠の書き方 ・表題欄の書き方、記入の仕方 ・第三角法の確認 ・寸法線、寸法値、引出し線	ドラフターを使用し、基礎基本 を学習し、立体模型を使用して 図面を作成します。
	11	・破線 ・中心線		
	12			
	1			
	2			
	3		・後期まとめ	
後期 目標				

評価方法	・理解度ペーパーテストの成績、授業課題やワークシートの提出状況、ワークシートの内容、日常の授業への参加態度、技能等で評価します。	
評価の 観点	【関・意・態】	・製図道具管理や図法の基礎・基本の習得に意欲的に取り組んでいるか。
	【思・判・表】	・作図方法、立体や平面の把握、設計の意図を正確に表すことができるか。
	【技能】	・製図用具を正しく使用し、丁寧な作図ができるか。
	【知・理】	・作図の等分や比率の把握、平面図法・立体図法の概念を理解しているか。

教科名	工芸	科目名	木工制作 I	学年	1 学年
教材	教科書	なし		単位数	4
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 日常生活における工芸作品の制作をとおして、工芸への関心を高める。				
	2 基本的な工具の使用法と木工芸における基礎的な知識と技術を身に付ける。				
	3 加工手順や、安全、強度を考慮する力、イメージを単純化する力を身に付ける。				
学習の進め方	1 木工作品の制作をとおして、機械や工具の基本的な使用法を学ぶ。				
	2 木工作品の制作をとおして、素地調整と塗装法について学ぶ。				
	3 生活における工芸の役割や意義について、身近な例を元に学ぶ。				
	4 樹木の生物学的な性質と、素材としての性質について学ぶ。				
	5 高大連携授業等による課題を通して、ものづくりの考え方を培う。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○道具や設備の使い方 樹木について	・学習内容の把握 ・素地調整、オイルフィニッシュ ・木材の種類、繊維方向とその作品の仕上がりとの関係性についての学習 ・小刀、彫刻刀の扱いの学習 ・高大連携による講義（5月中旬）	簡単な木工作品を通して、墨付けから完成までの工程及び基礎的な工具の扱い方を学ぶ。 高大連携授業ではおもちゃについての講義を受け、宿泊研修での学びにつなげる。
	5	○おもちゃづくりの考え方		
	6	○森林探訪	・座学により素材となる樹木について理解を深めます。 ・北大研究林での演習を通して、樹木や木材への理解を深めます。	樹木の特性、木材の構造などについて工芸と結びつけて考える。
	7	○動物パズル制作 ・構想（エスキース） ・加工	・墨付、糸のこ、ボール盤の操作 ・モチーフの単純化、省略化 ・接着手順、加工と基準面の関係	加工と強度の関係について制作を通して学習する。 素地調整に頼らず切断する技術をつける。
	8	・素地調整 ・塗装		構想から完成までの作品制作の手順に必要な思考力を養う、制作する上で必要な思考力を高める。
	9			・小テスト等、知識が身に付いているか確認する。
前期目標				
後	10		・座学により接着剤や緊結材、塗装について学習します。	・異素材の加工について触れ、工芸への理解を深める。
	11	○カトラリー制作 スプーン制作 ・デザイン	・「工芸」の意義について理解し、生活における役割について学びます。 ・機能と形の関係の学習 ・安全性に配慮したデザイン決定	各自で必要な材料を選択する。無駄なく強度・加工工程を考慮して木取りすること。 作業内容に応じて鋸、糸鋸、鑿、小刀、彫刻刀の使い分けする力を身につける。
	12	・製材、加工 ・素地調整、塗装 ・レポート ・制作発表と鑑賞		素地の状況を判断し、適切な番数を選択して素地調整する。 締切を意識し、逆算して作業をするよう心掛ける。
	1	○卒業制作発表	・3年生の卒業制作の過程を知り自身の制作に結びつけて考える。	
	2			
	3	○1年間のまとめ		・小テスト等、知識が身に付いているか確認する。
後期目標				

評価方法	提出された作品の状況、課題に対する技術力、デザイン力、小テスト、授業への意欲・態度等により総合的に評価します。（変更になる場合があります。）				
評価の観点	【工芸への関心・意欲・態度】	学習課題を理解し、積極的かつ丁寧に取り組み、素材や工芸への関心を高められるか。			
	【発想・構想の能力】	加工法や材料について理解を深め、課題に応じて発想豊かに美しい形を作り出せるか。			
	【創造的な技能】	作業工程に応じ、安全確認を含め道具を適切に使用した加工ができるか。			
	【鑑賞の能力】	作品のよさや美しさ、加工法について考えを深め、制作に生かす事ができるか。			